

一口メモ：草薙剣（クサナギノツルギ）とは

天照大神（あまてらすおおみかみ）の弟神である須佐男命（すさのおのみこと）が退治した八俣大蛇（やまたのおろち）の尾から出てきた鋭い大刀だそうです。

天の叢雲の剣（あめのむらくものつるぎ）という呼び方もありますが、日本武尊（やまとたけるのみこと）が東国遠征の際、国造（くにのみやつこ）の火計の罠にあったとき、この剣で草を薙（な）ぎ払うなどして、九死に一生を得ます。以後、この剣を草薙（くさなぎ）の剣と言うようになりましたとの説もあります。

古事記では天照大神が天孫降臨の際に、瓊瓊杵尊（ににぎのみこと、天照大神の孫、日本の初代統治者）に「八咫鏡（やたのかがみ）、八尺瓊勾玉（やさかにのまがたま）、草薙剣」を神代として授けたと記されています。

現在、八咫鏡（やたのかがみ）については、伊勢神宮の内宮に安置され、八尺瓊勾玉（やさかにのまがたま）については、現在は、御所の中の、天皇の寝室の横に剣璽（けんじ）の間があり、そこに剣とともに安置されているそうです。

草薙剣については、諸説あるそうですが、今でも、熱田神宮内にあると言われております。